

# ストップ地球温暖化!

## 環境にやさしいまちづくり

1990年代に入り、地球温暖化が人類をはじめとする生物界全体に深刻な問題をもたらすことが指摘され始めました。温暖化の原因としてさまざまな要因が考えられますが、世界の科学者で構成するIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、2001年に発表した報告書の中で、温暖化は人類の活動によるものと結論付けています。皆さんの身の回りでも、資源・エネルギーの無駄遣いをなくし、地球温暖化防止を心掛けましょう。

### 地球温暖化とは？

現在、地球の平均気温は15度前後です。もし大気中に温室効果ガスと言われている水蒸気や二酸化炭素、メタンなどがなければ、マイナス18度前後になります。

それは、太陽から地球に降り注ぐ光が地球の大気を素通りして地面を暖め、その地表から放射される熱を温室効果ガスが吸収し大気を暖めているからです。

近年、生産活動が活発になり、二酸化炭素やメタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出され、大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇しています。これが地球温暖化です。

### 増え続ける温室効果ガス

2001年に発表されたIPCCの報告書によれば、温暖化は、海面の上昇、砂漠化、干ばつや集中豪雨などの異常気象をもたらし、食糧生産や生態系へ深刻な影響を及ぼすものとして心配されています。

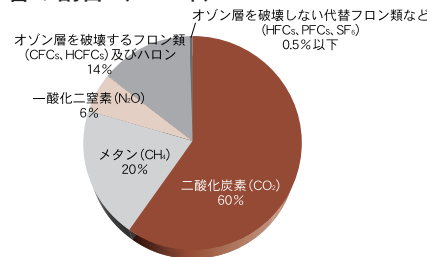
この二酸化炭素濃度は、1750年から1998年までの約250年間で31%も増加しており、過去2万年で最大の増加率となっています。このままでは、2100年には

### 上がり始めた気温上昇する海面

地球の平均気温は20世紀の間に約0.6度上昇しました。北半球のデータによると、この上昇スピードは過去千年で最大であり、特に過去50年は自然の変動ではなく、人類が引き起こしたものであるといわれています。

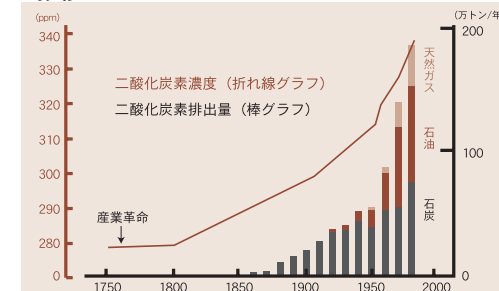
このまま温室効果ガス濃度が上昇すれば、2100年の気温は1990年からさらに1.4から5.8度上昇すると予測されています。また、この影響で海面も10から20センチ上昇しており、2100年までに海水温の上昇による熱膨張と氷河などの融解によって、さらに9から88センチ上昇すると予測されています。

【図1】大気中の温室効果ガスの温暖化への影響の割合 (2001年)

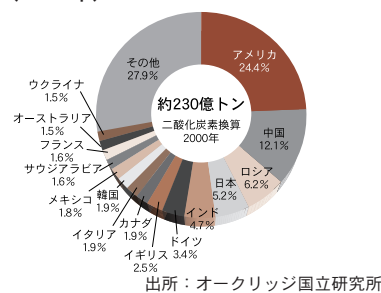


出典：IPCC報告書

【図2】温室効果ガス（二酸化炭素）の濃度と量の推移



【図3】二酸化炭素排出量の割合 (2000年)



出所：オークリッジ国立研究所

### 増え続ける二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量の最も多い米国は、毎年50億トンを排出し、全世界の24.4%を占めています。日本は約12億トンを米国の4分の1以下ですが、世界で4番目となっています【図3】。

また、一人当たりの排出量でも米国が最も多く、日本は米国の約半分、4番目に多い国となっています。

### 日本の温室効果ガス排出量

2003年の日本で排出された温室効果ガスの総量は、13億3910万トンのCO<sub>2</sub>であり、京都議定書(※)の規定による基準年(1990年)比で8.3%の増加となっています【図4】。

議定書で決められた二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を6%削減するためには、国や企業はもとより、わたしたち一人一人が真剣に取り組む必要があります。

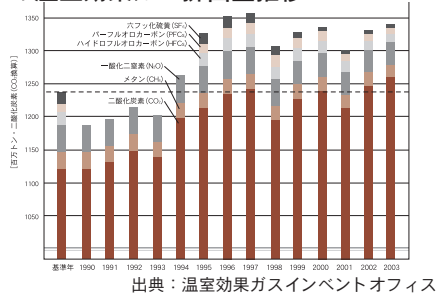
### わたしたちができる取り組み

■エコライフ(省エネ編)  
地球温暖化最大の要因である二酸化炭素は、家庭のさまざまなところから出ています。照明・家電製品で使う電気が一番多く、次に自動車、給湯

### ※ 京都議定書

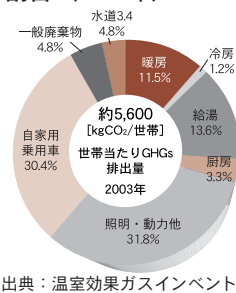
1997年、京都で開催された会議で、先進国から排出される温室効果ガスの具体的な削減数値目標や達成方法を定めた「京都議定書」が合意されました。これは、2008年から2012年までの間に、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を先進国全体で1990年と比べて5.2%削減しようとするものです。日本は6%、米国7%、欧州連合(EU)は8%削減することなどが義務付けられています。この議定書は、目標を超えて排出する国が、目標を達成した他国から排出権を買い取れる特徴があります。

【図4】京都議定書の対象となっている日本の温室効果ガス排出量推移



出典：温室効果ガスインベントオフィス

【図5】家庭からの温室効果ガス排出量の割合 (2003年)



出典：温室効果ガスインベントオフィス

■エコライフ(消費編)  
物を買うおもうと思つたときは、まずその物が本当に必要かどうか、故障の場合は修理して使うことができないかを考え

暖房の順で多くなっています【図5】。

※これだけで年間約22,140円の節約につながります

【表1】身の回りのできる二酸化炭素削減・家計の節約方法

| 項目・内容  | 二酸化炭素削減量 (kg - CO <sub>2</sub> /年) | 節約金額 (円/年)      |
|--------|------------------------------------|-----------------|
| 照明     | ●蛍光灯 (15W) を1日1時間節約する              | 2 kg / 130円     |
| 冷凍、冷蔵庫 | ●冷蔵庫の物の出し入れを工夫する                   | 6 kg / 360円     |
|        | ●冷蔵庫には詰め込み過ぎないようにし、季節に合わせて温度を調整する  | 25kg / 1,570円   |
| 給湯     | ●冷蔵庫を正しく設置する                       | 19kg / 1,230円   |
|        | ●ガス給湯器の設定温度を40度から38度にする            | 28kg / 1,910円   |
| 冷暖房    | ●シャワーを1日1分家族全員が減らす                 | 約65kg / 約4,000円 |
|        | ●冷房の温度を1度高く、暖房の温度を1度低く設定する。        | 約31kg / 約2,000円 |
| 洗濯機    | ●電気カーペットの使い方を工夫する                  | 30kg / 2,070円   |
|        | ●こたつの使い方を工夫する                      | 12kg / 750円     |
| 温水洗浄便器 | ●ふたを開けっ放しにしない                      | 18kg / 1,120円   |
| 洗濯機    | ●風呂の残り湯を洗濯に使いまわす                   | 約17kg / 約5,000円 |
| 電気ポット  | ●ポットやジャーの保温を止める                    | 約31kg / 約2,000円 |

出典：【ライフスタイルチェック25】財団法人/省エネルギーセンター【一人ひとりの地球温暖化対策】環境省